

2016WORLD ROWING SENIOR ,UNDER23 & U19 CHAMPIONSHIPS REPORT 7 (8/21)

いよいよ、熱い熱い8日間の始まりを迎えました。朝食、ホテル発は各クルー、カテゴリー別に行いました。日本代表チームの先陣を切るのはU23カテゴリーになります。朝から風共に強く荒れた天気でしたが、選手・スタッフ共にほぼ予定どおりの動きでレースの準備を行いました。レースを明日からに控えたシニアクルーは朝のうちに乗艇練習を行いました。U19クルーは日中に乗艇練習を行う予定でしたが、コースの使用ができなかったため陸上トレーニングに切り替え調整しました。



本日から適用のランチチケット。こちらは会場用となる。ホテル用は別の種類がある。



激しい風雨の中、世界選手権がスタート。

激しい天候のなか、早朝のトレーニングを行うシニアクルー



LM2- 左からS 奈良選手（新日鐵住金）、B小林選手（戸田中央総合病院RC）



LM1x 池田選手（トヨタ紡織）



LW1x 上野選手（明治安田生命）

第一レースが始まるころから風雨はさらに強まりましたが（10分7～8 mm程度の強雨）、予定通りスケジュールは進み、日本代表チームの一番手、高島選手（明治大学）が出場するBLW1x予選2組目となりました。

11:05 BLW1x 予選

風雨が強く難しいコンディションの中スタートからリズム良く漕ぎだし500mをトップで通過すると2位カナダと共に後続をさらに引き離しにかかる。第2クォーターでもリズムをキープして1000mを2位カナダに2.59秒差、3位アメリカに7.44秒をつけてトップで通過。第3クォーターもそのまま突き進みたいところであったが、3位アメリカが猛追を見せ始め、つられるようにカナダもペースアップ。2クルーが日本に迫ってきたが、落ち着いて対応し1500mもトップで通過。しかし2位カナダとは0.95秒差、3位アメリカには4.60秒差と差を詰められてしまう。

2位までが準決勝に進める状況で日本、カナダ、アメリカの第4クォーターの激しい戦いが繰り広げられ、最後にカナダにかわされたものの2位で準決勝進出を決め、先陣の役割を見事に果たし日本チームによい流れを作ってくれた。



1000m付近をトップで通過する日本：高島選手（明治大学）



凄まじい風雨の中、ゴール前でカナダとデッドヒートを繰り広げる日本：高島選手（明治大学）

11:35 BLM1x 予選

コンディションが目まぐるしく変わる中、スタートからトップ争いを演じ500mをタイと同時ながらもトップで通過。第2クォーターに入ると日本がタイを引き離しにかかるが、その間隙をついてイラクとオーストリアが力強い漕ぎで日本に並びかけてきた。1000mの通過で0.32秒と僅かながらもトップの座を譲り渡して2位で通過。僅かの差で3位オーストリア、4位タイ、少し離れて5位アメリカと続く。1位イラクの勢いは第3クォーターに入るとさらに加速し混戦から抜け出始めた。日本はオーストリア、タイと激しい2位争いをするも1500mの通過はオーストリアにかわされて3位に後退してしまう。4位までが準々決勝に進めるが少しでも上の順位とタイムがほしいところだったが、第4クォーターに入り風雨がさらに強くなったところで一瞬のスキを突かれタイにかわされたが、4位はキープし準々決勝に駒を進めた。



蹴りだす古米選手（日本大学）



古米選手（日本大学：奥から2番目）



4位で準々決勝進出を決めた日本：古米選手（日本大学）

11:55 BLM2- 予選

強い風雨の合間に晴れ間がのぞいたり、相変わらず天気は目まぐるしく変わる中、日本チームの3番手としてBLM2-クルーが登場した。スタートはイタリア、カナダが飛び出し中国、日本、オランダが追う展開に、500mの通過を1位イタリアから2.85秒差の4位で通過。4秒以上はなれた5位オランダ以外はどこにでもチャンスがある状況。ここからカナダと中国がレースの争うように艇速を伸ばしトップイタリアをかわしてトップ争いを始めた。何とかここに加わりたい日本だが、少しずつ離され始め1000mをトップカナダから8.00秒遅れの4位で通過。第3クォーター、何とか持ち直し追撃を仕掛けるも流れは止められず上位3クルーとの差はじりじりと開いて4位のまま1500mを通過。ラストクォーターも切り替えてペースアップするもののそのまま4位でゴール。明日の敗者復活に回るようになった。



レースへ向け船台へ向かうLM2-クルー



蹴りだすLM2-クルー



必死の力漕を見せる日本

日本クルーは左からS林選手、B嶋田選手（共に日本大学）

12:05 BLW2x 予選

1レーンから日本、ニュージーランド、ポーランド、アメリカ、イタリア、ギリシャの6か国で上位2か国が準決勝に進むこのレース。さらに強まる風雨の中、スタートから果敢に攻めるも中々前に出ることができず、500mを1位イタリアから5.95秒遅れて6位で通過。しかし2位ニュージーランドとは2.97秒差と射程圏内には押さえている。第2クォーターに入ると2位ニュージーランドと3位以下の差がじりじりと広がり日本も5位アメリカと激しく競り合いながらも、トップ争いからは遅れてしまった。1000mを6位で通過するも、日本クルーは諦めることなく前を追い続けた。第3クォーターでも粘り強くストロークを重ねついに1500mではアメリカの前に出ることに成功した。第4クォーターはアメリカのスパートに屈することになったが、激しいコンディションの中の厳しいレース展開とはなったが、粘り強く戦ったこの内容は必ず次につながると確信できるレースとなった。



蹴りだすLW2xクルー

雨がさらに強まる中、懸命に前を追う日本

日本クルーは左からS成瀬選手（明治大学）、B角谷選手（立教大学）



12:30 BLM2x 予選

スタートからデンマーク、ドイツと主導権を争い500mを1位デンマークから1.90秒差の3位で通過。第2クォーターも果敢に前に出ようとするがなかなかかなわず1000mでは逆に差を広げられデンマークに代わり1位に躍り出たドイツから3.86秒差の3位で通過。何とか前に出たいところではあったが第3クォーターで後退してしまい、1500mでは1位ドイツ、2位デンマークから大きく遅れ、4位クロアチアから激しく追い上げられることになってしまった。ラストクォーターに入るとクロアチアと激しい3位争いを繰り広げたがラストでかわされ4位でゴール。明日の敗者復活にまわることになった。



クロアチアと最後まで3位争いを繰り広げた日本
日本クルーは左からS古田選手（明治大学）、B武田選手（関西電力美浜）



激しい波のなかゴール直前、1つでも順位をあげようと力漕する古田選手（明治大学）、武田選手（関西電力美浜）

17:10 BLM4- 予選

午後になり天候は回復してきたが、風が舞う中のスタートとなった。4か国中3か国が準決勝に駒を進めることができる。日本は序盤からポーランド、スイスと主導権争いを繰り広げ、500mを1位ポーランドと並ぶかのように0.20秒差で通過。日本から0.22秒差で3位スイスが続き少し遅れてアメリカが4位で通過。第2クォーターに入るとポーランドがじりじりと差を広げにかかる。日本は何とか食い止めたいところだが1000mでは1位ポーランドに2.32秒差をつけられてしまった。3位スイスとは相変わらず激しく競り合っている。第3クォーターに入ってもポーランドの前に出れそうでなかなか出られず、スイス、アメリカも中々引き下がらない。1500mも同じ順位で通過したのち各国がスパートを入れ始める。日本もS佐藤選手（日本大学）がギアをトップに入れポーランドとの差をみるみる詰めるが、ゴールまでに抜き去ることはできずに2位でゴール。トップゴールはならなかったものの、日本代表チームの初日を締めくくるにふさわしいタフなレースを展開してくれた。



蹴りだすLM4-クルー

ゴール前までもつれたタフなレースとなった。手前から4位アメリカ、3位スイス、2位日本、1位ポーランド
日本クルーは左からB志賀選手（日本大学）、2福井選手（東レ滋賀）、3荒川選手（一橋大学）、S佐藤選手（日本大学）



各クルー、レース終了後、それぞれバスでホテルに戻りました。

19:00 夕食

19:30 全体ミーティング

U23の6クルーが世界選手権初日の日本代表チームのスタートをしっかりと切ってくれました。明日はシニア3クルーの予選とU23の3クルーの敗者復活戦が行われます。さらに弾みをつけるレースができるよう選手・スタッフ一丸となつてのぞみますので応援よろしく願いいたします。

